

## [ラルフ・W・ハリス]「聖霊」

### V. 聖霊の働き

ヨハネによる福音書 14：16-18、26、15：26、16：7-15

前章においては“信者の中における聖霊の働き”を述べた。その強調するところは、信者を未来に備えるための聖霊の働きであった。それとは対照的に、この章は、聖霊が信者に、信者自身のためであると共に“神の栄光のためでもあるこの地上の生活を、いかにさせるか”を取り扱っている。

これに関連して、聖霊は人格であって、単なる影響力というようなものではないことをつねに記憶しておかなければならない。聖霊が弁護者、慰め主であることは、このことを現わしている。



だれでも時には、自分がキリストの在世時代に生存していればよかったと願うものである。キリストを知り、彼の話聞き、行なった奇跡を見、彼との交わりを喜ぶことは何という特権であり、またスリルに富んだことであろうか。イエスに従う者にとって、彼は師であり、導き手であり、助け手であった。

しかし、私たちはキリストの弟子たちが味わったと同じ特権を有しているのである。キリストが弟子たちに「**ほかの助け主**」を送ると約束した時、彼自身が弟子たちへの助け主であるという事実を語ったのであった。そこでイエスが人格であったように、聖霊は弟子たちに対して人格でなければならなかった。

#### 聖霊は内住する

#### 教師である聖霊

ヨハネ 14：26 にイエスは聖霊について「聖霊はあなたがたにすべてのことを教えるであろう」と言った。またヨハネ 16：13 では「あらゆる真理に導くであろう」と言っている。聖霊はこの世における偉大な教師である。イエスはこの世にあった時、偉大な教師で

あったが、今は聖霊が彼の立場をとっているのである。

聖霊の教えは新しい真理の啓示というよりもむしろ、すでに啓示された真理の啓発である。とくに聖霊は、私たちの思いと心に御言葉を開いてくださるのである。やはりなんと言っても聖霊は聖書の真の著者である。彼は聖書の最善の解釈者である。昔の人々を靈感して書かせた聖霊は、今日、神の言葉の真理を理解させるために信者に油注ぐことが出来るのである。

その教えは深淵（しんえん）であるので、聖霊は偉大な教師である。聖霊は限りある知性が聖霊の助けなしには理解出来ない真理を知らせることが出来る。人々は時々、第1コリント2：9を引用して「目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神はご自分を愛する者たちのために備えられた」と言い、そこで止まってしまおう。しかし次の節に、「神は御霊によってわたしたちに啓示して下さった」と続いているのである。

生まれながらの人は神のことを理解することは出来ない。第1コリント2：14はその理由を、「それらの霊によって判断されるべきであるから」と言っている。しかし12節は神が聖霊を賜った理由をすでに説明している。「それによって、神から賜った恵みを悟るためである。」ここに私たちを真理の宝庫へ導くことの出来る教師がいる。私たちは彼の教えを受けるべきである。

## 指導者また案内者である聖霊

道は誤りやすいものである。「われわれはみな羊のように迷っている。」私たちが救われた後でさえ、私たちには導いてくれるだれかを必要とするのである。イエスは聖霊がこのことをするであろうと約束した。実にこれは私たちが神の子であるということの一つの証拠である（ローマ8：14）。

**賢い人というのは、聖霊の導きに対して敏感になっている人のことである。**

私たちの内にいる聖霊は、私たち自身よりもよく私たちを知っている。また三位一体の神として神の御旨をわきまえているお方である。「神の思いは御霊以外に知るものはない」（第1コリント2：11）。私たちが誤ったことに誘われる時、いかに多く聖霊は私たちを導き、正したことであろうか。

聖霊は信者をどこへ導くのであろう。彼は古い性質の本質である自我のために生きないように、私たちを導いてくださる。もし私たちが自己および自己の行為から、キリストおよび彼の行為へとすべてをゆだねるなら、聖霊は私たちを導くのである。

とりわけ、聖霊は私たちがキリストへ導く。 神の御子を崇めるのは聖霊の働きであるから、聖霊は私たちをつねにキリストとの親しい交わりへと導くのである。聖霊はイエスの同情がいかに私たちの悲哀への答えであり、イエスの愛がいかに私たちの悲しみへの答えであり、イエスの慰めがいかに私たちの絶望への答えであることを示してくれる。

イエスは聖霊について「彼はあらゆる真理へ導くであろう」と言った。ほかの場合にイエスは神の言葉は真理であるということを言っている。聖霊がある聖句を示して心に強く迫ったという経験があるであろうか？

## 聖霊は信者を慰める

イエスが、来るべき聖霊について用いられた最も表現に富んだ言葉は「**慰め主**」である。この言葉は「**擁護者**」また「**弁護人**」と訳すことが出来る。聖霊は信者にとってこのようなお方である。よい弁護士が依頼人に対してどのようであるかを考えていただきたい。彼はその申し立てのよい結末を期待するように、依頼人を励ますであろう。彼は依頼人に、どのように振舞い、なんとするかということ忠告したり、相談に応じたりするであろう。彼は反対者に対する策略に関して、依頼人に注意を与えるであろう。

弁護士は、依頼人のために、申し立てに勝訴すべく、なしうる限りをしたことを確かめるであろう。最後に彼は依頼人のために弁じるであろう。

聖霊はこれらのすべて以上に、主にゆだねる者に対して心を用いるのである。 彼こそ、私たちの弁護者なのである。彼が私たちと共にいる以上、私たちが彼と一致している限り敵に勝つことが出来る。もしあなたが、キリストがこの世にいた時に生き、また彼と親しく交わっていたとしたら、彼に対してどのように振舞ったであろうか。あなたは問題を彼のもとに持って行かなかっただろうか。困難な時、彼の力に信頼しなかっただろうか。もし忠告を必要としたら、彼のもとに行かなかっただろうか。

これらのすべての態度を聖霊に対して示すことが出来るのである。そして聖霊は、キリストが弟子たちにしたことをあなたに対してするであろう。

だから、あなたは聖霊にチャンスを与えなければならないのである！

## 聖霊は私たちの子たることを確かにする

ローマ8：15、16は聖霊について「子たる身分を授ける霊」と言っている。これは神の子としての私たちの立場を現実なものとしてくれる、聖霊の働きに関係することである。 罪が、あまりにも人間を冒してきたので、人は救われた後でさえ、神の臨在へと接近

する最高の特権の中へ入ることを好まないものである。聖霊の働きは、私たちが本当に神の子であることを悟らせることである。そうすることによって聖霊は、「はばかりことなく恵みの座に来る」ことが容易であることを、私たちに確信づけるのである。

“新しく生まれる”ことによって私たちに神の子の性質が与えられる。“子たる身分を授ける”ことにより、聖霊は私たちが神の子としての権利を持つことを心に証しするのである。彼はこのような言葉が言わんとするところのものを、すべて私たちに知らせてくださるのである。

## 聖霊は弱さを助け、祈りを導かれる

聖霊は私たちの祈りの生活における偉大な助け手である。

ローマ8：26、27はこのことがどのように私たちに成されるかを語っている。

- **第一に聖霊は私たちのためにとりなす。**

その理由は私たちはどのように祈るべきかを知らないということである。私たちはしばしば、何のために祈るかを知らないことがある。

だから、私たちを助けに来ることの出来る方を必要とするのである。このお方こそ、私たちと一緒に祈ってくれる聖霊である。

- **聖霊のとりなしの一つの面はとくに慰めるということである。**

ローマ8:27は「御霊は、聖徒のために、神の御旨にかなうとりなしをして下さる」と述べている。もし私たちがつねに神の御旨にしたがって祈っているということを知るなら、それは私たちに大いなる確信となるであろう。ここにちょうどそれと同じ保証があるのである。

私たちは聖霊の助けなくして何をするであろうか。多くのクリスチャンが聖霊を無視し、彼の助けを受けないということは、実に悲しいことである。もし彼らが聖霊の導き、油注ぎ、慰め、教示、知恵を受けるならば、弱さや失敗はもっと少なくなるであろう。